





## スダンブ

カハタ

すまいが……御覽の通り私がこ

翌日から局の方には辭表を出

あらしが来る空合。

一切は一切の中に煙つて

一切を無にしようとして

で、半獣様のタンブの製作に

承知の通りなんです。新聞は奇

うな鶴い身体になりましたのは

子供の時分親の不注意でついて

掛りました。それは形から大き

何とも思つて居ませんでしたが

私が例の職業、拘束業にどち

つて日親分の家に草鞋を脱がせ

てもらつて居た頃といふ廿四

五歳の唇のゆがんだんばの男

が居ました。此のMの外に五六

人若い連中が居まして隨分販

が例の職業、拘束業にどち

つたものですが勿論賭博者とか

夫連ばかりの事ですから、大抵は

中ばかりの事を上げたものです。此のMは

云々風でした各自の自慢話に熱

事はなし透潤に外に出られぬ連

ゴロゴロして各自の自慢話に熱

を上げたものです。此のMは

云々風でした各自の自慢話に熱

を上げたものです。此のMは

して半獣様のタンブの製作に

親切第一

御便利用

御用を承

りますから

御用引立

を願ひます

御用引立

御用引立

御用引立

御用引立

御用引立

間に経つて新聞はMの逮捕され

横木ある二本の柱のしたに一

で仕舞つて總ての女に敵意憎

を抱く様になりました。

然し私の生活上に次の様な變化

が如何に甘き感動的のものであ

云ふものが例の仕事に再び失敗して押

しに引込んで時々あの口にう

笑ひを浮べる丈でした。そう

雲ふと云ふのは私が郵便局に勤める

うちに引込んで時々あの口にう

笑ひを浮べる丈でした。それが

元來私は手先の極々器用な方

のと後で本人が發見しても女の

羞恥心から大抵は黙つて居た故

で居る爲め人に付かなかつた

が如何に甘き感動的のものであ

云ふものが例の仕事に再び失敗して押

しに引込んで時々あの口にう

笑ひを浮べる丈でした。それが

元來私は手先の極々器用な方

のと後で本人が發見しても女の

羞恥心から大抵は黙つて居た故

で居る爲め人に付かなかつた

が如何に甘き感動的のものであ

云ふものが例の仕事に再び失敗して押

しに引込んで時々あの口にう

笑ひを浮べる丈でした。それが

元來私は手先の極々器用な方

のと後で本人が發見しても女の

羞恥心から大抵は黙つて居た故

で居る爲め人に付かなかつた

が如何に甘き感動的のものであ

云ふものが例の仕事に再び失敗して押

しに引込んで時々あの口にう

笑ひを浮べる丈でした。それが

間に経つて新聞はMの逮捕され

横木ある二本の柱のしたに一

で仕舞つて總ての女に敵意憎

を抱く様になりました。

然し私の生活上に次の様な變化

が如何に甘き感動的のものであ

云ふものが例の仕事に再び失敗して押

しに引込んで時々あの口にう

笑ひを浮べる丈でした。それが

元來私は手先の極々器用な方

のと後で本人が發見しても女の

羞恥心から大抵は黙つて居た故

で居る爲め人に付かなかつた

が如何に甘き感動的のものであ

云ふものが例の仕事に再び失敗して押

しに引込んで時々あの口にう

笑ひを浮べる丈でした。それが

元來私は手先の極々器用な方

のと後で本人が發見しても女の

羞恥心から大抵は黙つて居た故

で居る爲め人に付かなかつた

が如何に甘き感動的のものであ

云ふものが例の仕事に再び失敗して押

しに引込んで時々あの口にう

笑ひを浮べる丈でした。それが

元來私は手先の極々器用な方

のと後で本人が發見しても女の

羞恥心から大抵は黙つて居た故

で居る爲め人に付かなかつた

が如何に甘き感動的のものであ

云ふものが例の仕事に再び失敗して押

しに引込んで時々あの口にう

笑ひを浮べる丈でした。それが

元來私は手先の極々器用な方

のと後で本人が發見しても女の

羞恥心から大抵は黙つて居た故

間に経つて新聞はMの逮捕され

横木ある二本の柱のしたに一

で仕舞つて總ての女に敵意憎

を抱く様になりました。

然し私の生活上に次の様な變化

が如何に甘き感動的のものであ

云ふものが例の仕事に再び失敗して押

しに引込んで時々あの口にう

笑ひを浮べる丈でした。それが

元來私は手先の極々器用な方

のと後で本人が發見しても女の

羞恥心から大抵は黙つて居た故

で居る爲め人に付かなかつた

が如何に甘き感動的のものであ

云ふものが例の仕事に再び失敗して押

しに引込んで時々あの口にう

笑ひを浮べる丈でした。それが

元來私は手先の極々器用な方

のと後で本人が發見しても女の

羞恥心から大抵は黙つて居た故

で居る爲め人に付かなかつた

が如何に甘き感動的のものであ

云ふものが例の仕事に再び失敗して押

しに引込んで時々あの口にう

笑ひを浮べる丈でした。それが

元來私は手先の極々器用な方

のと後で本人が發見しても女の

羞恥心から大抵は黙つて居た故

で居る爲め人に付かなかつた

が如何に甘き感動的のものであ

云ふものが例の仕事に再び失敗して押

しに引込んで時々あの口にう

笑ひを浮べる丈でした。それが

元來私は手先の極々器用な方

のと後で本人が發見しても女の

羞恥心から大抵は黙つて居た故

間に経つて新聞はMの逮捕され

横木ある二本の柱のしたに一

で仕舞つて總ての女に敵意憎

を抱く様になりました。

然し私の生活上に次の様な變化

が如何に甘き感動的のものであ

云ふものが例の仕事に再び失敗して押

しに引込んで時々あの口にう

笑ひを浮べる丈でした。それが

元來私は手先の極々器用な方



## 我等の日伯紙!!

論文・隨筆・感想

募集

自らの喰物にする不良分子の輩

が在伯同胞八万餘人の機關紙

を例へ一時的にせよ休刊の止

むなきに至らしめた亂暴狼藉そ

れに加齢した一部野心家の策動

そこに端を發した今度の問題

も前號第一、二面に亘る三浦社

長の眞相發表に依つて、その總

てを了解された事と存じます。

突如今日迄の沈黙を破つて、あゝ

した記事を掲載したのも、第三

者の意憶測を正しくする爲に

は致し方のない事です。が今後

如何なる虚構中傷の矢を放たれ

やうとも、彼等陰险なる不穏分

子に對する應對は一先づ之を打

切れります。

「日伯は何處へ行く」

日伯新聞が一日伯社のための存

在ではなく、在伯同胞全部の公

論機關である事は今更論をまち

ません。日伯新聞は、あらゆる

社會集團に共通の生活興味に基

いた性質の上に立脚して社會會

識の表現なり、又は櫻子として

の機能を發揮する事に邁進して

行きます。日伯新聞はその主義

主張を曲げない範圍内に於て、

その批判希望を伺ひたいと思つ

て居ります。お辭を受ける事

は嬉しいにちがいありませんが

皆様方の正しい御意見をお洩ら

し下さい。

掲載原稿のうち優秀なものに

は薄謝を呈します。總て封筒

には「應募原稿」と朱書の事

で金利引上と

保證準備擴張

先月中英米のクロスレートは

四ドル八十仙臺の安値を報じ、

且総育市場の變らざる金利高の

為に、英國は益々金流出を促進

する情勢に悩まされた事があつ

た。先に総銀銀行の金流出は既に

なつてゐる最低準備額一億五千

萬磅より遙かに低下してゐたが、

それが對策として、產業界不振

失業者續出の國內事情に鑑み、

金利引上に依らざる別途方法が

経常識

英國の金利政策

金利引上と

保證準備擴張

先月中英米のクロスレートは

四ドル八十仙臺の安値を報じ、

且総育市場の變らざる金利高の

為に、英國は益々金流出を促進

する情勢に悩まされた事があつ

た。先に総銀銀行の金流出は既に

なつてゐる最低準備額一億五千

萬磅より遙かに低下してゐたが、

それが對策として、產業界不振

失業者續出の國內事情に鑑み、

金利引上に依らざる別途方法が

経常識

英國の金利政策

金利引上と

保證準備擴張

先月中英米のクロスレートは

四ドル八十仙臺の安値を報じ、

且総育市場の變らざる金利高の

為に、英國は益々金流出を促進

する情勢に悩まされた事があつ

た。先に総銀銀行の金流出は既に

なつてゐる最低準備額一億五千

萬磅より遙かに低下してゐたが、

それが對策として、產業界不振

失業者續出の國內事情に鑑み、

金利引上に依らざる別途方法が

経常識

英國の金利政策

金利引上と

保證準備擴張

先月中英米のクロスレートは

四ドル八十仙臺の安値を報じ、

且総育市場の變らざる金利高の

為に、英國は益々金流出を促進

する情勢に悩まされた事があつ

た。先に総銀銀行の金流出は既に

なつてゐる最低準備額一億五千

萬磅より遙かに低下してゐたが、

それが對策として、產業界不振

失業者續出の國內事情に鑑み、

金利引上に依らざる別途方法が

経常識

英國の金利政策

金利引上と

保證準備擴張

先月中英米のクロスレートは

四ドル八十仙臺の安値を報じ、

且総育市場の變らざる金利高の

為に、英國は益々金流出を促進

する情勢に悩まされた事があつ

た。先に総銀銀行の金流出は既に

なつてゐる最低準備額一億五千

萬磅より遙かに低下してゐたが、

それが對策として、產業界不振

失業者續出の國內事情に鑑み、

金利引上に依らざる別途方法が

経常識

英國の金利政策

金利引上と

保證準備擴張

先月中英米のクロスレートは

四ドル八十仙臺の安値を報じ、

且総育市場の變らざる金利高の

為に、英國は益々金流出を促進

する情勢に悩まされた事があつ

た。先に総銀銀行の金流出は既に

なつてゐる最低準備額一億五千

萬磅より遙かに低下してゐたが、

それが對策として、產業界不振

失業者續出の國內事情に鑑み、

金利引上に依らざる別途方法が

経常識

英國の金利政策

金利引上と

保證準備擴張

先月中英米のクロスレートは

四ドル八十仙臺の安値を報じ、

且総育市場の變らざる金利高の

為に、英國は益々金流出を促進

する情勢に悩まされた事があつ

た。先に総銀銀行の金流出は既に

なつてゐる最低準備額一億五千

萬磅より遙かに低下してゐたが、

それが對策として、產業界不振

失業者續出の國內事情に鑑み、

金利引上に依らざる別途方法が

経常識

英國の金利政策

金利引上と

保證準備擴張

先月中英米のクロスレートは

四ドル八十仙臺の安値を報じ、

且総育市場の變らざる金利高の

為に、英國は益々金流出を促進

する情勢に悩まされた事があつ

た。先に総銀銀行の金流出は既に

なつてゐる最低準備額一億五千

萬磅より遙かに低下してゐたが、

それが對策として、產業界不振

失業者續出の國內事情に鑑み、

金利引上に依らざる別途方法が

経常識

英國の金利政策

金利引上と

保證準備擴張

先月中英米のクロスレートは

四ドル八十仙臺の安値を報じ、

且総育市場の變らざる金利高の

為に、英國は益々金流出を促進

する情勢に悩まされた事があつ

た。先に総銀銀行の金流出は既に

なつてゐる最低準備額一億五千

萬磅より遙かに低下してゐたが、

それが對策として、產業界不振

失業者續出の國內事情に鑑み、

金利引上に依らざる別途方法が

経常識

英國の金利政策

金利引上と

保證準備擴張

先月中英米のクロスレートは

四ドル八十仙臺の安値を報じ、

且総育市場の變らざる金利高の

為に、英國は益々金流出を促進

する情勢に悩まされた事があつ

た。先に総銀銀行の金流出は既に

なつてゐる最低準備額一億五千

萬磅より遙かに低下してゐたが、

それが對策として、產業界不振

失業者續出の國內事情に鑑み、

金利引上に依らざる別途方法が

経常識

英國の金利政策

金利引上と

保證準備擴張

先月中英米のクロスレートは

四ドル八十仙臺の安値を報じ、

且総育市場の變らざる金利高の

為に、英國は益々金流出を促進

する情勢に悩まされた事があつ

た。先に総銀銀行の金流出は既に

なつてゐる最低準備額一億五千

萬磅より遙かに低下してゐたが、

それが對策として、產業界不振

失業者續出の國內事情に鑑み、

金利引上に依らざる別途方法が

# 大岡政談

鈴川源十郎  
卷 林不忘作

【第廿四回】

『笑はせては不可。どうも呆れるほどしつこいやつだな。』  
しつこくなればあ出来ん仕事をしてゐる。われながらゆえあるかな。おれの辻斬りを感づいた以上、何とあつても生かしてはおけん。』

『さうか……では! それほどまでに所望なら、鈴川源十郎。』

『何にもお相手仕仕らう! だがしかし、後悔さきに立たず、一太刀食らつてから待つたは週い

『おれに斬り殺されたのだ。そこ

『だから貴様はすでに死んだ。源十郎はくしゃみをする前

『おれに斬り殺されたのだ。そこ

『やうな奇妙な顔をした。

『派に極つたぞ源十、おれあ貴様の血が虹のやうに飛ぶを見た

『だけね、何もあね御にこんな

『が壺を伏せたり開けたりする手

『つひと、女を連込む造口は見て

『生きてゐるといふ氣がするの

『け生きてるといふ氣がするの

『因縁な性得よなあ! 貴様

『が壺を伏せたり開けたりする手

『つひと、女を連込む造口は見て

『生きてゐるといふ氣がするの

『因縁な性得よなあ! 貴様

『が壺を伏せたり開けたりする手

『つひと、女を連込む造口は見て



# NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonez de maior circulação no Brasil

Anno XV

São Paulo — Quinta-feira, 24 de Outubro de 1929

Num. 647

## E' desoladora a situação da linha aerea Tokio-Dairen

### Intensas propagandas da parcimonia nas estradas de ferro

Perderam aceitações no Perú os artigos de verniz japonezes

Crise no commercio exportador de seda japoneza

MATRIZ - RIO  
Rua Theophilo Ottoni, 85  
CASAS NO JAPÃO  
NAGOYA, KODE E YOKOHAMA

Endereço Telegraphico:  
"HACHIYA"

**Hachiya, Irmãos & Cia.**  
IMPORTADORES DE LOUÇAS, BRINQUEDOS, ARMARINHO E ARTIGOS JAPONEZES

R. Brigadeiro Tobias, 110  
TELEPH. 4-7688

SÃO PAULO  
CAIXA POSTAL, 2670

'Deficits' na linha aerea  
Tokio-Dairen

TOKIO, Setembro de 1929 — A falta sensível de passageiros e cargas na linha aerea estabelecida entre esta capital e Dairen, a cargo da Companhia Nacional de Navegação Aerea, veio criar "deficits" sucessivos nos balanços da referida empresa, referentes a estes últimos meses, facto que provocou a reunião extraordinária da sua direcção, afim de tomar medidas necessárias quanto à remoção de tais inconvenientes. No momento nada sabemos o que ficou deliberado nessa reunião, mas é de acreditar-se que a empresa vá solicitar do governo uma subvenção maior ou diminuir o número de viagens semanais.

Artigos de verniz japonezes no Peru

KOBE, Setembro de 1929 — Ainda há poucos annos o Peru importava perto de 2.000.000 yens anualmente, em artigos de verniz fabricados aqui, importação que foi perdendo essa prosperidade de ano para ano até que deixou de figurar na lista dos artigos importados pelo Peru, durante o anno passado. O principal motivo que determinou tal retrahimento por parte dos consumidores peruanos é o preço que é relativamente elevado, seguindo-se-lhe a fragilidade dos artigos, a impossibilidade de reforma, etc. Removidos tais inconvenientes, poderão, acreditam os importadores peruanos, encontrar mesmíssimas aceitações de outr'ora, os vernizes que caracterizam a arte japoneza.

A EXPORTAÇÃO DE SEDA JAPONÉZA

YOKOHAMA, Setembro de 1929 —

Louças, Artigos Japonezes  
e Nacionaes

**K. NISHITANI**

IMPORTADOR E  
EXPORTADOR

Rua Conceição, 88  
End. Teleg. NISHITANI  
Caixa do Correio, 1134  
RIO DE JANEIRO

## A IMMIGRAÇÃO JAPONÉZA

Trecho da conferencia do sr. Antonio de Queiroz Telles,  
no Rotary Club

(Continuação) Fundada pelos fazendeiros em 1886 a Sociedade promotora de Immigração, logo os planos para a escolha dos elementos imigratórios a serem introduzidos pela novel sociedade foram discutidos entre os seus associados. A então província de São Paulo foi proclamada como uma região de grandes possibilidades para a imigração.

Ela era rica de terras incultas e pobre de braços que a viessem frutificar. Era em summa uma região cujo futuro dependia da qualidade dos imigrantes a receber, adaptando-se estes à população já existente no paiz.

Portugal a quem nos prendiam laços de consanguinidade, como fonte imigratoria, não podia ser tomado em consideração em vista da sua exigua população não oferecer margem para as nossas necessidades. Ficou, pois, desde logo, assentado que os imigrantes a serem trazidos para as lavouras do Estado de São Paulo seriam os italianos. Do exito dessa instituição não precisamos falar.

Os fundadores da Sociedade

### Como a imprensa japoneza encara a parcimonia do primeiro ministro



(Em cima) O garçon — Eis aqui a carta, sr. primeiro ministro... O sr. Hamaguchi — Para que "d la carte", quando posso alentar-me da mesma forma com a refeição completa.  
(Em baixo) O chauffeur — Prompto, sr. primeiro ministro, o meu taxi...  
O sr. Hamaguchi — Tenho duas pernas.

Desde os primeiros dias deste mês, o nosso commercio exportador de seda para os Estados Unidos se acha paralysado, sendo por isto grande o numero de vapores que viajam entre os portos ja-

ponezes e yankees sem carga compensável. O movimento desse commercio nos dois principais portos — Yokohama e Kobe, durante o mês de agosto ultimo, foi de 914.615.000 yens.

pones e yankees sem carga compensável. O movimento desse commercio nos dois principais portos — Yokohama e Kobe, durante o mês de agosto ultimo, foi de 914.615.000 yens.

peses pelos quais transitam, habilitando-os, destarte, para instrutores de imigrantes japonezes, de que careciam há muito tempo. Entre as matérias a serem atacadas pelos nossos estudantes, constam as legislações social, política e comercial, a língua e os costumes adoptados por cada classe, de um país de imigração.

**NIPPAK SHIMBUN**  
Propriedade e direcção de:  
SACK MIURA  
Redactor:  
Jorge T. Midorikawa  
Redacção, Administração e Oficinas  
Rua da Liberdade, 146  
Caixa Postal, 375  
Telephone, 2-3926  
Endereço Telegráfico "NIPPAK"  
SÃO PAULO — BRASIL  
ASSINATURAS  
Para o Brasil:  
Por anno . . . . . 30.000  
Por semestre . . . . . 16.000  
Número avulso . . . . . \$500  
Para o Exterior:  
Por anno . . . . . 60.000  
ANNUNCIOS  
Temos à disposição dos interessados uma lâmina completa de preços para anúncios nesta folha. Telephone 2-3926

## JAPONEZES

NO JAPÃO ... NO BRASIL

Prof. BRUNO LOBO

11

### ALGUMAS PALAVRAS SOBRE A ORGANIZAÇÃO SOCIAL E HABITOS DOS JAPONEZES

(Continuação)

Inicialmente, entre os japonezes primitivos, dominavam verdadeiras crenças mythologicas, pelas quais as numerosas ilhas, que constituem este paiz, provém da procriação do Deus do Sol. Aliás, no Congresso Universal de Raças, de Londres, em 1911, o Dr. Genchi Kato, com a autoridade de professor de Scienzia Religiosa na Universidade Imperial de Tokio, assevera que nos mythos cosmogonicos do Japão não existe criação no sentido estrito da palavra, mas simplesmente produção e geração.

O Shintoismo, cuja influencia sobre o povo japonês foi enorme, encontra simile em quasi todos os povos, quando admitem que, apó a morte, subsiste alguma coisa de sobrehumano, a alma ou a sombra do individuo, o que permite fazer acreditar que persiste de cada individuo morto elemento capaz de influenciar sobre os vivos. No Japão primitivo este preconceito foi elevado a tal ponto, que é respeitado e invocado, não sómente o que poderá persistir, do individuo morto, mas foi mesmo admitido o espírito da raça, do proprio paiz, uma verdadeira alma collectiva, dos vegetais e animais que viveram, bem como da terra, de toda a natureza japoneza. E' o respeite e culto por todo passado no seu variado *kami*.

O Shintoismo primitivo gradativamente foi fundindo-se com o Budismo, tendo este encontrado, em parte, o terreno preparado, quando os seus adeptos começaram a pregar que — a morte não é senão uma apariencia e que perpetuamente o ser revive em milhões de existencias e que nenhum ser existe verdadeiramente, não passando este mundo de illusão e sonho.

A vida individual, por outro lado, nada valendo, prepara apenas o individuo ou para a ascenção ou para a decadencia. E' necessário neste mundo vencer a si mesmo, manter firme a vontade, bem orientada a nossa ambição, para poder chegar ao estado superior, pois só elle existe, — elle que é o nada — o Nirvana.

O Confucionismo exerce tambem grande influencia sobre o carácter do povo japonês. E' a predica da justiça, do respeito ao proximo, cumprimento dos deveres na familia, respeito aos superiores e ao proximo. O passado é sagrado e deve ser venerado e respeitado. Por outro lado, a partir do anno de 1637, portanto muito mais recentemente, o Christianity começou a encontrar numerosos adeptos. Não fôr a crise interna suscitada pelas guerras civis e pela intervenção dos estrangeiros na politica interna do paiz, maiores seriam os progressos desta religião nos tempos passados e mais numerosos os seus adeptos no presente.

\* \* \*

Quando se fala em Oriente Asiatico ou se escreve sobre qualquer povo oriental, para muitas pessoas, desconhecedoras do que ali se passa, vem logo á mente o uso do opio, julgado generalizado a todas as classes sociais, a todos os individuos.

E' bem verdade que em certos países orientais o uso do opio é mais generalizado do que no Occidente, mas, por outro lado, nos países os mais civilizados, numerosos alcaloides, excessivamente toxicos, são utilizados por pessoas de todas as classes sociais e todas as idades, com incalculáveis prejuizos para a inteligencia, actividade, saúde e vida.

Accentuemos, de passagem, a excessiva toxicidade dos alcaloides extraídos por meio de processos, que lhes asseguram a natureza inalterada e a pureza, consequentemente acção energica, com rapidez de absorção, facilidade da ingestão ou certeza da dosagem na injeccão.

E não se diga que os alcaloides, isolados uns dos outros, perdem de muito o seu poder activo, mais pronunciado quando em mistura nas condições em que naturalmente se apresentam, pois hoje os preparados, chamados integrais e totaes, fornecidos pela technique rigorosamente scientifica dos fabricantes de medicamentos, vêm colocar ao alcance do occidental o opio e todas as outras drogas, que podem ser utilizadas, e actuar em toda a sua complexidade toxicica.

Nos países do Oriente fuma-se o opio, mas o uso desta substancia tão nociva é fortemente combatido, reduzido ao minimo no Japão, apesar do alto contingente fornecido após a incorporação da Ilha Formosa.

No Japão, a propaganda contra o opio, intensa e intelligentemente orientada, começa na escola primaria, sendo mostrados e evidenciados os perigos decorrentes do seu emprego.

Nos livros primarios, accentua o Professor M. Miyajima, existem paginas em prosa e verso, onde são exaltados ao maximo a sua accão nociva e os grandes perigos sociais, decorrentes do seu emprego.

A população da ilha Formosa, incorporado ao Japão em 1895, após a guerra com a China, estava habituada ao uso do opio, novidade para o Japão, ainda não victimado por similar usança e detestável habito.

O Governo Japonez não hesitou um só momento, e, encarando o problema de frente, começou a campanha, bem orientada e systematizada, cujos resultados devem constituir natural orgulho para os seus cientistas e administradores.

O primeiro cuidado do Governo Japonez foi verificar, por meio de estatísticas cuidadosas, quantos individuos fumavam similarmente droga na ilha incorporada. Em o anno de 1900, na Ilha Formosa, existiam 165.752 fumantes.

Regulamentada devidamente a venda do opio, que ficou sendo privilegio e monopólio governamental passou a ser vendida esta substancia unicamente aos individuos viciados pelo habito, sendo o fornecimento feito após exame e receita medica, de acordo com programa previamente estabelecido pelo Barão de Goto. Estava a Nação Japoneza tão interessada no combate a similar flagelo.

(Continua)

## "O JAPÃO EM SÃO PAULO"

— FUNDADA EM 1906 —

### ARTIGOS JAPONEZES EM GERAL

RUA S. BENTO, 60 — S. PAULO

Telephone: 2-2788

Caixa Postal, 344